

「第4回市民活動支援セミナー」を開催しました

2026年3月26日(木)、近畿大学九州短期大学講師の立石力斗先生*をお迎えし、「知的障害や発達障害がある青少年への支援ー様々な先端技術の活用可能性ー」と題し、オンラインセミナーを開催しました。

当日は、研究助成先の先生や市民団体の皆さま、一般参加の皆さまを合わせ総勢20名が参加し、和やかな雰囲気の中で行われました。立石先生は、特別支援教育を専門とされ、特別支援学校の教諭としての豊富なご経験を背景に、現場に根ざした研究テーマに一貫して取り組んでいられています。

セミナーではまず、「VR」「AR」「AI」「ICT」といった、近年注目を集める用語について分かりやすく解説してくださいました。続いて、先生のご研究「知的障害や発達障害がある青少年を対象としたVRによる旅行支援に関する研究」についてご紹介いただき、VR技術を活用した具体的な支援の可能性が示されました。参加者にとっては、VRを用いた支援のあり方を学ぶとともに、さまざまな場面での応用について考える貴重な機会となりました。

意見交換の場では、参加者から「VRを活用することで外出や体験の機会が広がり、体験格差の軽減につながるのではないか」という感想が寄せられました。これに対し先生からは、「不登校の子どもや修学旅行に参加できない子どももいるが、旅行先で教員がカメラを持って行動し、その映像を通して現地に来られなかった子どもが同じ空間にいるような感覚を得られる取り組みも考えられる。その他、教室に入ること自体に不安や恐怖を感じる子どももいるといった話があったが、VRはそうした場面への支援にも活かせるのではないか」との見解が示されました。

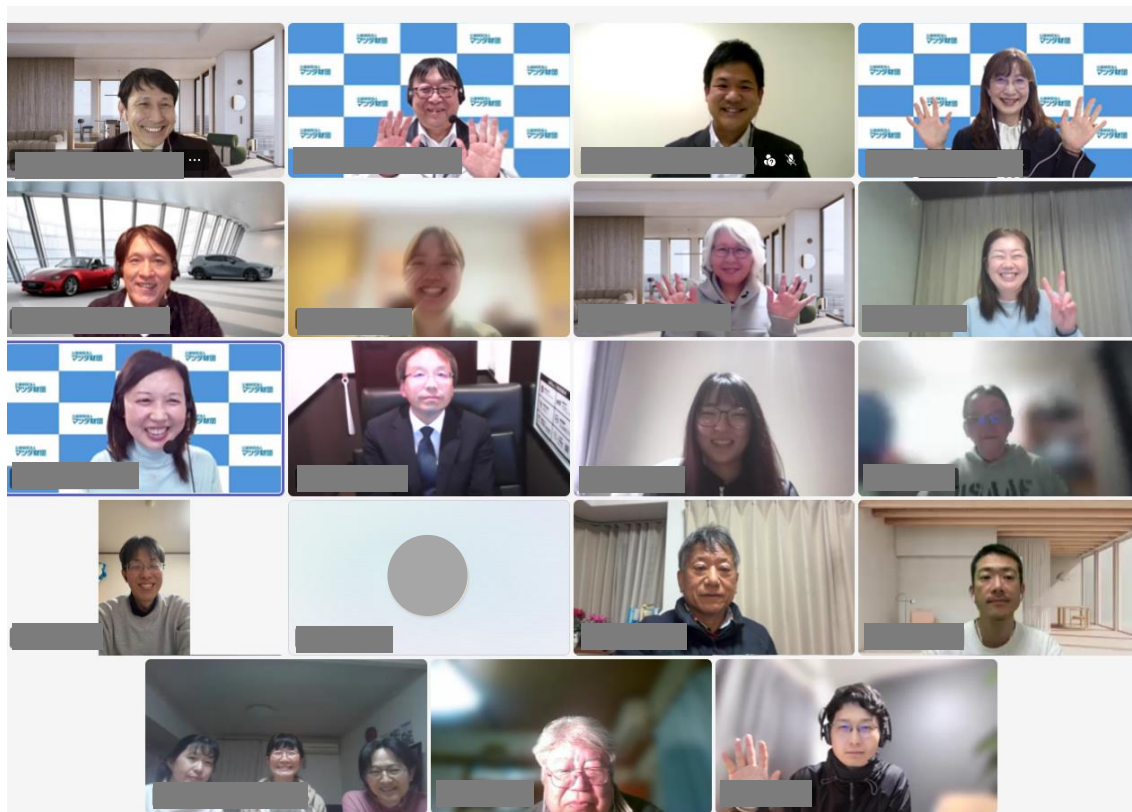
今回のセミナーでは、「VR技術を障がい者に活用し、旅行という観点から豊かな人生に貢献する」という先生の温かく熱意あふれるお話に触れました。先生のご研究は、日常の枠を超えた心豊かな体験を、誰もが享受できる社会の実現に大きく寄与する取り組みであると感じ、今後への強い期待を抱きました。

参加者の感想**

- ・VR技術について理解が深まり、その可能性の広がりを強く感じる時間となりました。
- ・支援を行う立場から見ると、便利で優れた技術やツールは今後ますます増えていくと感じます。一方で、支援する側の理解や教育といった人的な側面(マンパワー)の重要性や、「物」への期待が高まることで、本人(児)が本来育んでいくべき力や、その可能性を適切に見極める視点も、より一層大切にしていきたいという思いが生まれました。それでもなお、技術の開発や進歩を前向きに進めることで、障がいへの理解が深まり、社会参加・社会進出の一助となるのであれば、とても意義深く素敵なことだと感じました。
- ・身体障害のある方の中には、慣れない環境に対して不安を抱く方もいらっしゃるため、今回のケースは特定の障害に限らず、さまざまな場面で活かせるのではないかと思います。
- ・「できない」→「できるかもしれない」への追及、「すべての子どもたちが幸せに暮らすこ

とができるように」の願いのもと大変貴重な講演をありがとうございました。私どももその姿勢で取り組ませていただきます。

・自身が行う市民活動とは少しテーマは違いましたが、テクノロジーの有用性やプロブレムへの介入の仕方など大変勉強になりました。



マツダ財団では、これからも、社会課題に関するセミナーや、参加者皆さんでディスカッションいただけるサロンを開催してまいりたいと思いますので、ぜひご参加ください。

*2026年4月～福岡女学院大学 人間関係学部 講師。

(本郷)